

舞台鑑賞事業部

事前企画 「12月例会を楽しむためのみんなの集い」～魔術師の変身グッズを作ろう～

11/13(日) 参加者8名

ピアノカの魔術師のアイコンにもなっているシルクハットを子どもたちと作った。マラカス、カスタネットも作り、スクリーンに映し出された魔術師と一緒に演奏した。そのInstagramの投稿にはミッチェリーさんがコメント→→→→を下さり、演者と子ども劇場の近さを感じた。また、ウェルカムボードと、ピアノカの魔術師のみなさんへのお礼の色紙、当日配布するミニチュアシルクハットの製作も行った。



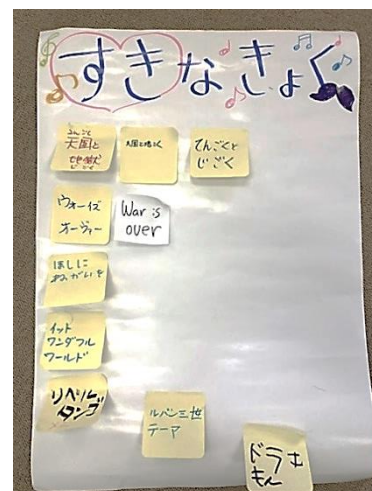
事後企画 アフタートーク

12/24(土) 参加者12人

はじめに、当日を思い出したり声を出しやすくし、心をほぐす魔術師クイズの時間から始まった。そして、①好きだった曲②自由感想③こども劇場20周年記念イヤーを終えるにあたり、振り返りや今後について一人一人ポストイットに書き出し発表した(右写真)。最後に心のこもったクリスマスプレゼント交換をし、楽しい1年の締めくくりとなった。

参加した感想 熊谷瑞穂さん(小町ブロック)

公演で使われた楽器や曲を思い出しながら、子どもも大人も感想を話し合いました。年長の息子、もう公演のこと忘れちゃったかな…?と思ったけれど「音が大きくて楽しかった」「ドラえものの曲が良かった」と自分なりの言葉で振り返り、本物のステージは印象深かったようです。素敵な音楽を振り返ることで感動が深くなりました。人との交流が途絶えがちなコロナ禍ですが、思いを言葉にして人に伝えるのは素敵なことですね。



例会当日、受付にクリスマス飾りをし、20周年を振り返るパネルや会場いっぱいの席を準備して、始まる前からスタッフの盛り上がりが高まっていた。連日公演にも関わらず全く疲れも見せずに、ミッチュリーさんは、この例会を開催できて嬉しいと、プロフィール通りのパッションを放っていた。受付は今回も会員親子が担当し、製作したミニシルクハットは来場した子どもたちに思い思いに身に付けてもらった。

20周年を締めくくる最後の例会は半年をかけて準備した。チラシの作成にあたり、演者ミッチュリーさんの思いが溢れたプロフィール資料に目を通すと、魔術師のシルクハットからワクワクドキドキを飛び出させるイメージがすぐに沸いた。そこで事前イベントでもシルクハット、マラカス、カスタネットを皆で制作し、変身して動画の魔術師と合奏する企画を行った。

上演時間になると用意した席はいっぱいになった。始めに理事長から20年の感謝を述べ、20周年記念に相応しいすばらしい例会を楽しんで下さいと挨拶があった。



これに続くように登場したミッチュリーさんは、「おめでとうございます」と祝って下さり、この例会が記念例会であることをはっきりと印象付けて下さった。演奏前のトークが始まると、皆一気に魔術師の世界に入り込んだ。そしてまさに、「今までに想像もできなかった美しい音色」に心が震えた。曲の合間に、その奏法を伝授して下さるので、子どもも大人も飽きる暇がなかった。

ピアノカの音真似コーナーでは、高田さんと SEAI さんがマリオブラザーズになって登場し、4年前の松山公演と違う演出で、会場はさらに盛り上がった。



新メンバーSEAIさんはカスタネットの魔術師の別名を持ち、こちらも奏法の伝授があった。事前に、カスタネット持参の告知をしており、子どもたちはスキルアップにも勤しんだ。アメリカ、ジャマイカ、アルゼンチン・インドネシアの音楽や国の話は子どもたちにどのように聞こえたのだろう？会場の全員が、拍手やカスタネットで魔術師のメンバーとなり、音楽の世界旅行が始まった。



終盤に差し掛かると、「松山公演は2回目だから進化してきた！」と、圧巻の高速演奏で運動会お馴染みの曲も楽しめた。プレゼント渡しの後、「笑いあり涙ありの演奏ありがとうございました。感動しすぎてドレッドヘアーにしようと思います」と赤松颯樹さんがステージ上で感想を伝え、会場は笑いに包まれた。最後にミッチュリーさんが「松山子ども劇場に1年目から関わっている人の思いも一緒にステージにのせて演奏した。これからも共にならばっていこう」、「音楽には戦争を止める力もある。わたしも、使命感をもってやっている」、「日本は自殺が多いのにジャマイカにはない。それは明日を生きるのに必死で助け合って生きているから。世界にいくと価値観が変わる。みなさんも他の国に行ってみて」、「自分は、この仲間がいるからピアノの魔術師をすることでできている」などたくさんのメッセージを伝えてくれた。そして最後の曲では、会場全体でウン タン タンのリズムをとり、一体となって合奏しているのに気付き感動した。

この例会は、子ども劇場が初めての人もとても多かったが、ミッチュリーさんが子ども劇場の役割や願いを代弁して下さり、子ども劇場のアピールにもつながった。事前イベントに参加したメンバーは、例会当日もシルクハットをかぶり、ノリノリでカスタネットを演奏していた。事前事後の企画で子どもたちの心により多くの感動や記憶を刻めたと願いたい。

